



●第11回東京国際映画祭・国際女性映画週間出品作品

芸術文化振興基金助成事業  
(財)東京女性財団助成作品

浜野佐知監督作品

尾崎

OSAKI MIDORI

第七官界彷徨

〈尾崎翠〉1896-1971 鳥取県生れの女性作家。  
代表作に「第七官界彷徨」「ほろさ嫌」「歩行」など。

題字 柴山抱海

私はひとつ、  
人間の第七官にひびくやうな  
詩を書いてやりませう。

第六感を越えた〈第七官〉の爽やかな彷徨者、  
尾崎翠の生涯と作品を映画化！



白石加代子  
吉行和子  
原田大二郎  
宮下順子  
白川和子  
横山通代  
石川真希  
柳愛里

製作 樹目々舎 / 「第七官界彷徨」尾崎翠を探して「製作委員会」  
製作協力 鳥取県 / 鳥取県若美町 / 倉吉市 / 映画「第七官界彷徨」尾崎翠を探して」を支援する会東京 / 同、鳥取



尾崎

# 翠を探して

第七官界彷徨

製作「柳旦々舎」/「第七官界彷徨 尾崎翠を探して」製作委員会  
製作協力「鳥取県 鳥取県岩美町/倉吉市」  
映画「第七官界彷徨 尾崎翠を探して」を支援する会  
東京/同・鳥取

東京/同・鳥取

（キャスト）  
白石加代子 吉行和子 原田大二郎 白宮下順子 石川通和 横山真希 下元史朗 沢村誠一 中村潤一 本城美佐子 前田翠  
柳井愛里 宝井明 野村良介 井森介 佐藤一平 外波山文明 丸山由実 吉山明日美 野上正義 内海桂子  
現代特別出演  
加藤幸子 矢川澄子

（スタッフ）  
プロデューサー 鈴木佐知子  
原作 尾崎翠  
脚本 尾崎翠 尾崎邦紀 尾崎中誠 尾崎厚  
監督 尾崎翠  
音楽 小関孝 吉岡しげ美 門司康子 坂口康一 松岡康 小林照 馬場明子 岡野純一 岡野隆治  
ヘアメイク ヘアメイク  
アサイン アサイン  
モデル 浜野佐知



## 「尾崎翠」とは誰か

尾崎翠は、今から60余年前の昭和初年代に「第七官界彷徨」や「ほろぎ嬢」「歩行」などの傑作を発表しながら、人生の半ばにして、日本文学史からふつと姿を消した幻の作家だった。林芙美子のような親しい友人にも「気が狂って死んだ」と思われていた尾崎翠が復活するのは、1969年のこと。

新機軸の文学全集に「第七官界彷徨」が収録され、その時代を越えた風変わりな作風が、新鮮な衝撃を与えた。そして、作者が故郷の鳥取で、老後の日々を送っていることが確認される。35歳の時に、頭痛薬の中毒で鳥取に戻って以来、37年目の復活だったが、2年後、74歳で亡くなる。生涯、結婚することにはなかった。

尾崎翠は、主流派の自然主義の作家たちと違って、自分の私生活については、ほとんど書き残していない。こまごました日常生活や恋愛事件など書くに値しない、現実や日常を越えた新しい感覚の世界を表現するのが文学だ、と考えていた。それで、尾崎翠の死後、彼女の人生をめぐって、いくつもの憶測や伝説が生まれる。なかでも、死の床で、「このまま死ぬのならむいものだねえ」と呟きながら大粒の涙をぼろぼろと流した」という余りにも有名な一節は、まるで彼女の孤独で悲痛な人生のシンボルのように流布した。翠の後半生は「空しく老いつづけた」「生ける屍」だったというが、しかし、はたしてそうか？ 90年あたりを境に、女性の作家や研究者が新しく尾崎翠を読み直す機運が生まれ、当初の蒼ざめた悲愴なイメージを一新しつつある。

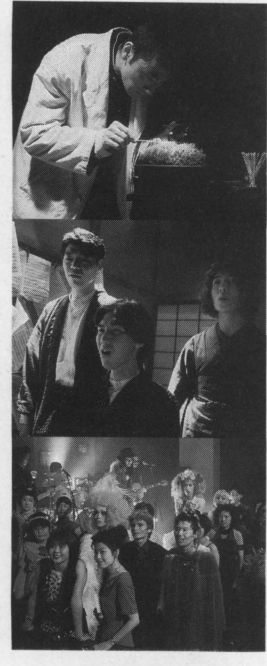


## そんなミミッチイ次元じゃない

現代のパーティーシーンに特別出演していた矢川澄子さん（詩人・作家）は、次のように話す。「割愛部分より抜粋」  
「東京に出てきて、まともな結婚もしないで故郷に連れ戻される。それはやっぱり、家父長的な男たちにしてみれば、とてもミットモナイことだったと思いますけれど、尾崎さん自身が考えていたことって、そんなミミッチイ次元じゃなかったと思うのね。いわゆる男の人の概念でみますと、作家としての作品を書くことで、身を立て、名を上げ、式のものを選びとったんじゃない。もつと大きなところから人間や社会や宇宙を見つめていた。故郷で甥や姪の世話をしていますが、それを男の視線で可哀そうというんじゃない。甥や姪や作品の世界さえも全部平等に見てたという感じがする。世の中に名前が広まらなかったかも知れないけど、頼れる伯母さまとして慕われていた。それと作品の世界で発散していたものと、ほとんど同等じゃないかと思う」

## 境界線を揺るがす過激思想のかたまり

同じくTVモニターで出演いただいた加藤幸子さん（作家）は、時代に先駆けた尾崎翠の根本思想について、次のように指摘する。（同・抜粋）  
「私たちが一般的に思う女とか男とかっていう境界線がなくなる感覚というのが、私たちの中に存在すると思うんですね。第七官の世界に踏み入ると、日常的にはごく当たり前だと思っていた観念が崩れ落ち、すべての境界線が揺らぎ始める。この作品全体の印象は、すごく細かい配慮で書かれているにも関わらず、なにかノンビリした、私たちの郷愁をそそるような懐かしい雰囲気は満ちています。物静かで、騒がしくない作品です。それにも関わらず、この作品は今までの既成の秩序を突き崩してしまうような、秩序を保つために作られた境界線というものを崩してしまうような、過激思想のかたまりではないかと私は思っています」  
わたしたちの映画は、鳥取の地に閉塞しているように見えながら、秋晴れの日には白い風がまたがって太陽系に遊びに出かける気体詩人（神々に捧げる詩）を、どこまで追跡できたでしょうか。



幻の孤高の作家・尾崎翠の人生と作品を、豪華キャストで完全映画化!!

# 7/24(土)~30(金) 待望のロードショー!!

期間限定特別ロードショー!!

## 特別鑑賞券1500円好評発売中!!

（当日/一般1800円、大学1500円、高校生1300円、中・小・シニア1000円）

※前売券は、劇場窓口、シネ・ヌーヴォ梅田、チケットぴあ、チケットセゾン、各プレイガイドにてお求めください。

12:10 2:20 4:30 6:40

## シネ・ヌーヴォ

地下鉄中央線「九条駅」16番出口下車  
大阪ドーム方向へ徒歩2分

TEL06-6582-1416

